

「木工創作教室」を訪ねて

木とふれあい、木に学び、木と生きる

木育のすすめ

木育とは、子どもの頃から木を身近に使っていくことを通じて、人と木や森との関わりを主体的に考えられる豊かな心を育てたいという想いがこめられた言葉であり、子どもをはじめとするすべての人が「木とふれあい、木に学び、木と生きる」取り組みです。それは、北海道民と北海道庁とが一緒になって検討をすすめた「木育」プロジェクト（平成16年9月に発足）より提案されたことに始まります。（北海道庁ホームページより引用）

木育とは？

文化への理解を深めるため、多様な関係者が連携・協力しながら、材料としての木材の良さやその利用の意義を学ぶ、「木育」ともいうべき木材利用に関する教育活動を推進する。」と明記されています。（林野庁ホームページより引用）
では、その「木育」の実際とは？
出雲科学館はそのオープンから市民の皆さんを受講者にした「木工創作教室」を主催しています。教室の講師は、長年にわたり木育普及活動をされている島根大学教育学部教授の山下晃功先生、そして原知子さんです。私たちは島根県出雲市を訪ねました。

島根大学 山下教授と出雲科学館 原講師に聞く

科学館で木工？

出雲大社や出雲ドームなどの建造物で有名な島根県出雲市。出雲市駅から徒歩10分、ダイワポウプログレス(株)の隣に位置するのが、出雲科学館です。平成14年7月に開館し、科学館では珍しく本格的な木工室、工作室、金工室が設置されています。
床はすべてフローリングで、作業台は10台、糸のこ盤10台、ボール盤4台、ほかにも木工機械がたくさんあります。従来の木工室とは違い、ガラス張りの部屋で天井は高く、空調も完備され、外からも展示室内からものぞくことができます。壁は防音壁でガラス戸を閉めると音は全くせず、外側は大きな造作物が出せるほどの大きな扉もあります。そのためか、外からのぞいている人は、何を作っている



島根大学 山下教授と出雲科学館 原講師に聞く



出雲科学館

出雲科学館の木工教室 「木工創作教室」

講師は、島根大学教育学部教授 山下晃功先生。補佐をつとめるのは、出雲科学館の講師 原知子さんと島根大学大学院生の徳光慧



山下先生、原さんと私たち。科学館の開館に至るエピソードを話していただきました。

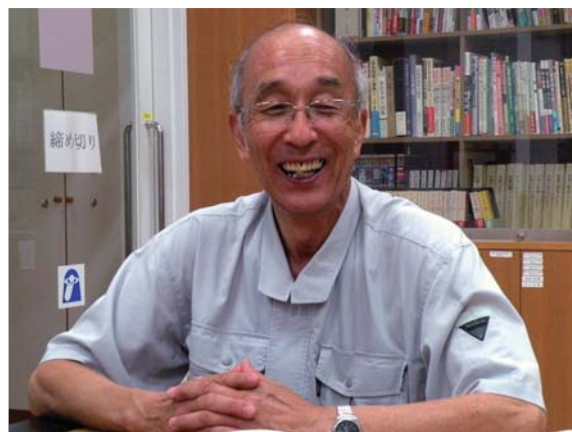
今回の教室の課題は、「自分のレベルに合ったものづくり」。参加者は男女合わせて9名。製作するものは参加者自らが考えて材料は各自で用意し、わからないところは講師に自由に質問できるというスタイルです。時間は10時半〜16時半（昼食休憩は12時〜13時）。参加費は工作室・木工室で異なり、保険代・糸のこ刃などの消耗品費・光熱費が含まれています。告知は、広報誌（市報）・科学館月間イベントカレンダー・ホームページ・山陰中央新報（島根・鳥取）などで行われています。まず、10時半に参加者が集まり、講師の簡単な挨拶があって、それぞれの制作にとりかかります。「木工基礎教室」は初級者用で、この講座は全5回のコースで木工の基礎を学びながらおもちゃや飾り棚など、生活に役立つものを考えて製作します。木工基礎をすでに終えていて直ちに糸のこ盤に向かい組み木を製作する方や、木工室で大型の機械を使った作業を行う方など、参加者のレベルも作業内容もさまざまです。糸のこ盤初心者の方は、講師から使い方を学び練習を重ねてから製作へと入っていました。講師に質問する人、道具の使い方を実際に教わる人がいて、講師の皆さんも作業台をあっちこっちに移動して、手を添えて作業を手伝ったり、機械の使い方を実演してみせたり、ときにじっと作業を見守ったり。山下先生は特に気さくで周囲に笑い声が絶えません。
機械や道具は引き出しや棚等に整理整頓されており、初めての方もどこになががあるのかすぐにわかります。それを参加者が自由に出して使い、使い終わったら片付けます。そ

それぞれのペースで作られ、16時には片付けに入ります。参加者たちは、言われなくても分担して掃除機や雑巾で掃除し、最後に化学モップで掃除をし、ピカピカの床に戻ります。その日に作品が完成する方もいれば、次回に持ち越される方もいらっしゃったりと、一日で完成するものや時間をかけて一つの作品を作るなど人それぞれでした。
出雲科学館では定期的に、「チャレンジ木工教室」「なるほど木工教室」「木工創作教室」「木工基礎教室」「木工応用教室」などさまざまなコースの木工教室が開催されています。

山下先生が木工を始められたきっかけ

この日、講師をされていた島根大学教授の山下先生にさっそくお話を伺いました。先生が木工を始められたそもそものきっかけは何だったのでしょうか？

「東京教育大学（現在の筑波大学）大学院農学研究科修士課程を修了して、島根大学教育学部に木材加工担当の助手として赴任しました。中学校の技術の先生を養成するコースです。このとき、木材加工実習や木材加工領域のすべてを教える技術と指導力を求められました。しかし当時、僕にはそんな力量はなかった。これではいけないと、自分の意志で島根総合高等学校職業訓練校（現在のポリテクセンター島根）へ内緒で研修に出たんです。当時はそんなことが許されたんですね。そこで生涯尊敬する技術指導者 榎繁（ゆずりはしげる）先生に出会いました。僕にとっては運



山下先生はとても話好き。気さくに何でも話してくれました

【プロフィール】

山下晃功 (やました あきのり)

島根大学教育学部教授

- 1945年岐阜県生まれ
- 東京教育大学大学院農学研究科修士課程修了 農学博士 (名古屋大学)
- 島根大学公開講座「木工教室」主宰 (1980年～現在)
- 日本木材学会地域学術振興賞受賞 (2001年)
- 全国中学生ものづくり競技大会実行委員長 (2002年～現在)
- 島根大学教育学部附属小学校長 (1996年～2000年)
- 木育推進体制整備総合委員会会長 (2007年～現在)

【主な著書】

- 「木と森の総合学習」(全国林業改良普及協会)
- 「木材の性質と加工」編 (開隆堂出版)
- 教育ビデオ「森と木の話シリーズ 暮らしに生きる木」制作指導 (農文協)
- 「木育のすすめ」山下、原 共著 (海青社)

山下先生が編集した 技術テキスト



笑顔がとても素敵な原さんでした

命の出会いです。
 杠先生は、技術と指導力、そして温厚で柔軟な考え方を兼ね備えた人。この出会いこそが、その後の僕の源泉になっていると言っても過言ではありません。
 職業訓練校では手加工の基礎・基本をみっちり学びました。訓練校で体で覚えたことが、大学で学んだ「木材切削論」や「木材組織学」などの授業内容で、実践ではこういう所に生かされているんだということが見えてきました。木工の面白さ、奥深さを知る経験でした。さらに、基礎から段階を踏んで教えないといけないことを知りました。

- ① 手加工で何かができる(木材加工実習1)
- ② 機械加工で何かができる(木材加工実習2)

③ それらを融合した扉のついた机と引き出しという精度を要求されるものができる(木材加工実習3)
 これこそ、理論と実際の融合した学習の理想であると感じました。この一年間の訓練を経て、初めて大学教官としてのスタートをきることが出来たのだと思っています。

研究テーマは？
「カンナを学び、カンナに学ぶ」
 「「かな」です。当時(昭和45年ごろ)の産業界は機械化、自動化、システム化へと開発の矛先が向いていた時代です。その流れに逆行する研究対象だったと言えます。きっかけは、島根総合高等職業訓練校の杠先生が

度々マジックシヨのように帯状のかななくずを見せてくださったことです。なぜそのようになるのか？その角度は何度？カンナくずの厚さは、通常何ミリ？など疑問に思ったことが詳しいデータや数値は学術書には載っていなかった。よし！カンナの切削のメカニズムを研究してやろう！これは博士論文のテーマになると確信しました。

序論..世界の平かなの分類、
 第一章..一枚刃平かなによる平削り機構。
 第二章..二枚刃平かなによる平削り機構。
 第三章..立刃による平削り機構。
 第四章..かな削りの作業動作分析。
 というのがその博士論文の内容です。
 一つ一つの基本(どういう力配分でどうい



木工教室の風景

木工教室に使われる「創作工房」の入口。ドアを閉めると防音で外に音は漏れない。



大開口の窓ガラスで明るい科学館の「創作工房」で、作業する受講生の皆さん



糸鋸機を使う山下先生。先生の実演にはみんなが見入ります。



受講生の作業を手伝う原さん(後姿)と徳光さん(右)



「創作工房」には大型の木工機械も備えられています。



科学館のパソコンで調べ中の子供たち。羨ましい施設です。

う力が必要なのか)を学ぶことで、安全で合理的な方法を理解し、しかも精度が高いものができる。これが、木工技術の真髄だと悟り、自信を得て、大学教官生活がやっと楽しくなってきたという感じでしたね。」

木工教室を始めたきっかけ

その後、木工教室も始められたのは？
「大学だけで教えることにもつたいなきを感じ始めたんです。30代の頃です。ちょうど文部科学省の生涯学習というスローガンが出始めた時でした。文部科学省から予算をもらい、『島根大学公開講座(木工教室)』を始めました。定員20名、隔週日曜日で行ったら、意外にも大人の方が喜んでくれたんです。高齢者の生きがいとうまく絡めて、支持を受け始めて、それから約30年続いています。今の松江木工クラブは、この木工教室をきっかけに作られた同好会です。」

アップ、展示会、シンポジウム、フォーラム、講演会、学習成果競技大会、短期体験活動、長期体験活動など多種多様な企画が必要です。これらのプログラムによって触発、啓発された国民が高いモチベーションをもって、日常生活の中で木育を実践し、活かしてもらうことが重要です。(木育のすすめ)書籍より引用)

■出雲科学館では、平日は一般向け木工教室、休日は子供向けの木工教室、特別企画展・木のサイエンスショーなどを行っています。

「参加してる子供や大人が木育という言葉を知らなくても、体を動かすことが楽しいと感じたり、頭を今日使ったなあとか、今日作ったものは誰かのプレゼントだったり、作ったものを囲んで家族みんなで話をしたり、そういうものを大切にしたい。それが、木育につながっていくんじゃないかな。」と、原さんは話します。その顔は、とても輝いていました。



■ワークショップ(木工教室)

定員20名以内で、実習・演習などの実体験型を取り、講師と受講生が気軽な会話や、意見交換、質問などを行いながら、課題に向かう。

■木のサイエンスショー

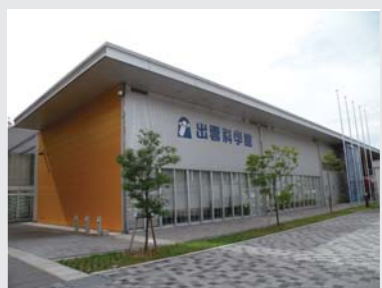
身近に使用されている木の科学を楽しく学べる。音色の違い、木目模様の違い、比重の違いなどを子供から大人まで楽しみながら学習できる。

■企画展

(平成18年度実施企画【樹と木の物語】)
身近な木材・木製品の樹種を知っている人は意外と少ないはず。材鑑を利用した樹種当てや、色の違い、木目模様など、樹木と木材との理解を深める。

※開催中の企画展については、下記HPにてご確認ください。

出雲科学館HPのURL
<http://www.izumo.ed.jp/kagaku/>



多くの人の発意と幸運な出会い

出雲科学館が開館し、木工教室開講に至る経緯をお聞きしました。以下は先生から伺ったおおよその経緯です。

出雲市前市長の西尾氏は「元文部科学省におられたこともあり、「科学技術創造立国」という未来ビジョンから、その地域実現の一つとして出雲科学館を構想されていました。やがて予算を得て、現在の予定地を購入することになります。その頃、隣の大津町には島根総合高等職業訓練校を定年退職した紅繁先生がおられました。」

その他、地域の方々の「高齢者の生きがい対策」への強い要望もあり、平成7年に林業山村活性化林業構造改善事業(資源活用型)で「三瓶こもれびの広場 木工館」が大田市の大山隠岐国立公園三瓶山麓に建設されたことを機縁に、科学館での創作工房開設がスタートします。準備委員には紅先生も加わりました。

その頃偶然にも、山下先生が科学研究費で全国にある木工館の調査していることが判明して、意見を求められ、山下先生も設置に関わることになりました。期せずして、かつての師弟どうしが科学館の創作工房設置準備に取り組むことになりました。もちろん、山下先生はそれまでの研究と教育の全経験、ノウハウをつぎ込むことになりました。紅先生の側面支援があったことは言うまでもありません。

出雲科学館の開館と木工教室開講に至る経緯には、多くの人の発意と幸運な出会いがありました。

原さんが出雲科学館で働き始めた経緯

科学館の講師、原知子さんは、弾む声と明るい笑顔が素敵な女性です。

原さんは島根大学教育学部を卒業し、島根県立出雲高等技術校で木工のノウハウを取得しました。科学館の最初のスタッフは市役所の方と山下先生と紅先生しかいなかったため、道具や材料を管理し、木工教室を企画、指導するスタッフが必要となり、一般公募で採用されました。最初は一年契約で入り、教えることの難しさを痛感していましたが、少しずつ教えることの楽しさを感じ始めたそうです。そういえば、教室での原さんは受講者の皆さんに対して、手取り足取りだけでなく、ときにじっと見守ったり、機を見て助言されたり、という講師としての気配りが印象的でした。

木育学習プログラムとは？

通常の木育学習プログラムは、ワークショップ



出雲科学館は、出雲市内の小中学校と提携カリキュラムで実験教室も実施されている他、地元の先生たちによるサイエンスショーなども準備します。写真は、ショー準備中の先生たちによるリハーサル風景です。

インタビューを終えて

《後記》
今回の取材は、7月に山下先生・原さんが木材・合板博物館に来館され、お話を伺う機会を得たことがきっかけでした。山下先生は、全国中学生創造ものづくり教育フェア「めざせ!!木工の技チャンピオン」の実行委員長として8年間活動されているほか、木育インストラクターを育成するための講座で講師としても活躍されています。

木工は、学校で図工や技術の時間では経験しても、成人してから日曜大工など木に触れる機会はとて少ないのが現状です。一番の理由は、環境の変化です。昔は、ゲンノウ、ノコギリ、キリなど一通りの道具が家にはありました。今は、マンション住まいの方も増えており、道具を使用しなくてもできない環境です。そのためか、木に触れる機会も激減し、作ることに好きでも出来ない人や子供には危ないから与えないという方もいらっしゃるかもしれません。子供は順応性が高いので、小さいうちから物を作ったり、組み立てるなど頭と体を使うことはとても大切です。発想豊かな作品は大人になってしまつと、なかなかできません。

完成されたものはその時だけで飽きると不要になってしましますが、自分で作る場合はどんなものができるんだろうとワクワクドキドキします。そして作ったものとても大事にすると思います。また、高齢者の生きがい対策としても良いものです。子供に戻つたようにみんな生き生きと作品作りに没頭し、完成した時の笑顔はとても輝いています。子供から大人まで楽しめる木工教育は今後さらに期待される分野なのです。

そのためにも、ボランティアスタッフ・大学教官との連携、他館とのパートナーシップなどが必要不可欠であり、木材・合板博物館の今後の課題といえます。

山下先生、原さん、今回は貴重な体験と機会を頂きまして、本当にありがとうございました。

(長谷川麻紀)



「TONE(トーン)」シリーズは、ウッドワークの定番アイテム。その一つ「TONE CABINET」は「木」とUV塗装のコントラストが楽しめる一品。扉は油圧の蝶番で開閉がなめらかです。



「ばたむテーブル」

「ばたむテーブル」は、手にとって良く見ると、左右が対象ではありません。「アンバランスが面白い」というスタッフの意見で出上がりました。精巧に仕上げられたエッジがスピード感をもし出しています。

店内のコンセプトはどちらかというと「楽しい」がキーワード。どのアイテムをとっても斬新なデザイン、使い勝

機? いえいえ、それも木製の「ひこう木」。手に取って良く見ると、左右が対象ではありません。「アンバランスが面白い」というスタッフの意見で出上がりました。精巧に仕上げられたエッジがスピード感をもし出しています。

おやつ、紙飛行機? いえいえ、それも木製の「ひこう木」。手に取って良く見ると、左右が対象ではありません。「アンバランスが面白い」というスタッフの意見で出上がりました。精巧に仕上げられたエッジがスピード感をもし出しています。

るばる青森まで遠征をしたそうです。人の眼を待ち望むように店内にレイアウトされた、さまざまな家具。そのどれもが、シンプルさを基調にしている印象があります。

「ブランチラック」はその名の通り、枝に止まった小鳥を模したラック。帽子、そこに架けたら?」部屋を訪れた人に、さりげなく自慢してみたいなります。

手を考え抜いて凝らされた工夫や仕掛け。それが杉島さんの説明で明らかになるたび、驚きや発見が尽きません。そして、「どこか楽しい」。ウッドワークはそんなお店です。もちろん家具の量販店ほど安くはありません。でも、高級家具を並べる贅沢とは一味も二味も違います。暮らしに「木の楽しさ」を添えたいと思う人にはお薦めのショップです。

897年)。112年の歴史を誇る老舗です。「下甚商店」には技を極めた職人さんが居て、材木を商うだけでなく、歌舞伎座の舞台セットや、松坂屋の展示ブリスなどを作って納めています。かつては「下甚商店」じしんも日暮里に映画館を持っていたとか。つまり、その頃からただの材木屋さんではなかった、ということになります。

重厚な質感の「ATTSU TABLE」は、木口に木目をあらわにしたアクセントが効いています。「脚を外すことも出来ますし、板がのる状態でパランスが取れるように調整してあります。」教えてもらって初めて分かる、隠された機能。仕上げの丁寧さを感じさせる、滑らかな手触り。

オープン当初は、10種類以上の樹種から選べる無垢の一枚板のテーブルをメイン商品にしていたそうです。今は、家具に加えて木製の小物に至るまで豊富なコレクションが店内を占めています。「SOLA(そら)」は優美な曲線の一回挿し。ネーミングの由来はイタリア語で女性の独唱者。手に取ると、木製なのに不思議な重さ。転倒防止のおもりがはたらいています。

杉島さんが、今度は「工房」を案内して下さいました。ウッドワークは、一階がショップ。地下が工房になっていきます。階段を降りると、ブルーなジャズが聞こえてきました。工房のBGMです。タイトルナンバーは若いスタッフの好みで、Jポップから洋楽まで何でもあり。「曲に応じて大音量のときもあります」と笑いながら店長の藤本雅也さんが話してくれました。

その後、平成19年(2007年)にリニューアルして、今の新生ウッドワークが誕生しました。「リニューアルのコンセプトは、私たち若いスタッフが自分の考えをぶつけあう中で生まれま

若手スタッフ勢揃い



直井宏樹さん

鈴木亮佑さん

藤本雅也さん

杉島暢子さん

齊藤梓さん

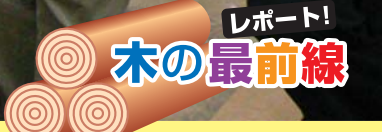
材木屋だからできる、材木屋らしくない選択

家具を持って、でかけよう

台東区台東四丁目。かつてこの辺りは、材木商が多く軒を連ねる街のだったそうです。JR御徒町駅から徒歩3分。台東中学校の隣、御徒町公園に面した瀟洒なビルの一階に、ウッドワークさんがあります。モダンな造りのインテリアショップです。

「はい、ばたんと折りたたんで、持ち歩ける『ばたむスツール』と『ばたむテーブル』です。スツール座面のキャンパスはカラーバリエーションがあって交換できます。洗濯もできてウォッシュャブルなんです。アウトドア用の椅子やテーブルは他にもありますけど、造り込まれたクオリティを楽しんでいただけたいいな、と思って作りました。」そう教えてくれたのは、ショップ主任で企画広報担当の杉島暢子さんです。

「はい、ばたんと折りたたんで、持ち歩ける『ばたむスツール』と『ばたむテーブル』です。スツール座面のキャンパスはカラーバリエーションがあって交換できます。洗濯もできてウォッシュャブルなんです。アウトドア用の椅子やテーブルは他にもありますけど、造り込まれたクオリティを楽しんでいただけたいいな、と思って作りました。」そう教えてくれたのは、ショップ主任で企画広報担当の杉島暢子さんです。



「木の最前線レポート」は、新しい「木」の時代を創出しようとする意欲的な挑戦を、ひろく紹介するコーナーです。今回は、創業110余年を誇る老舗材木屋「下甚」さんが開いた斬新なショップ工房「ウッドワーク WOODWORK」をご紹介します。

「あったら、いいな」という木のカタチを追求する

ショップ工房 ウッドワーク WOODWORK



公園に面したインテリアショップ「WOODWORK」の店舗正面



工房の様子



セピア色の記憶、かつての「下甚商店」

ウッドワークのスタッフ藤本雅也さんも出演するトークショーがあると聞いて、早速行ってみました。

「若手家具職人三人のトークショー」

『家具と人 Living with Modern Crafts』刊行記念イベントとして、10月10日、青山ブックセンター本店のカルチャーサロン青山で、若手家具職人3人によるライブトークショーが開催されたので、聞きに行ってきました。

語り手はWOODWORK店長藤本さん、STANDARD TRADE代表渡邊さん、hao&mei代表傍島さんの三人。皆さんそれぞれ家具職人として活躍されています。三人ともそれぞれ歩みは違うけれど、家具に対する思いは同じ。自分の持ち味を大切にしながら、クライアントとの会話も大切に、少しでも長く使い愛してもらえる製品（作品）にするために責任を持って取り組まれている様子が伝わってくるトークショーでした。

ウッドワークの藤本さんは高校卒業後、家具職人に出会ったことがきっかけで、大学で建築と設計を学びます。卒業制作で『椅子』を作っているときにウッドワークと出会いました。今はウッドワーク店長、家具職人、デザイナーの三役をこなします。以前は試作を作り自宅で使い試して見るが多かったそうですが、今は買い手としての立場も考えるためにも、社員割引で購入して試していると言います。将来はオーダー家具にも挑戦したいと抱負を語ります。ウッドワークは創業110余年という老舗材木店（下基商店）から、約二年半前に北欧を思わせるインテリアショップとしてリニューアルし、セミオーダー家具をメインにしています。5名のスタッフと共に意見をぶつけ合いながら一つの作品を作り上げています。スタッフは大家族のように仲が良いとも。

STANDARD TRADE代表渡邊さんは、自分の家を建てるために大学では建築を学んだが、様々な建築の規定や規制を知ったら夢が覚めてしまったと言います。大手家具メーカーの面接を受けたものの、自分の甘さを痛感して品川職業訓練校へ通います。その後、そのメーカーに合格はしたものの現実はそう甘くなかった。ある日同窓会で仲間の生き生きとした姿を見て転職。しかし、そこも人から言われるがままの仕事に耐えかねて10ヶ月で辞めてしまう。26歳の時、自分でSTANDARD TRADEを立ち上げて、様々な葛藤もあったが約10年を経て11名のスタッフを抱える会社に。オーダー家具をメインに製作し、クライアントの性格を見極めてから製作に入るというスタンスで仕事をされています。

hao&mei代表傍島氏は、普通高校卒業後、やりたい仕事を求めて職を転々とし、23歳の時に森林たくみ塾に入塾。そこで物作りの基本と樹について学びました。そこは併設するオークヴィレッジの商品をひたすら作り、納期があるという通常の学校よりもかなりハードな環境だったそうです。大変だったけれども、基本は作業を反復することで覚えるのが一番と言います。その後オークヴィレッジを経て独立しました。

このトークショーには、家具職人志望の方が多く集まっているように見受けられました。ゲストに直接話を聞きたいという学生さんも。

傍島さんは、北欧家具はシンプルだけれど完成された形を持っているものが多い。自分は日本人だからこそできる家具職人を目指しているそうです。渡邊さんは、父親の世代にも納得してもらえるデザインと性能を目指したいと。自分が親の世代になっても使い続けたい家具にしたい。藤本さんは、自分は家具職人としてはまだ未熟だが、20年30年使って頂けるような物に仕上げたいと、それぞれに抱負を語っていたのが印象的でした。

三人の家具造りへの夢がスパークするような、熱いひとときでした。

レポート 長谷川麻紀



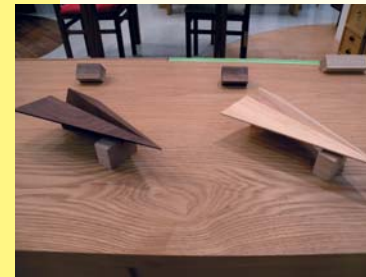
【家具と人】
Living with Modern Crafts
●萩原健太郎・太田あや(著)
●永禮賢(写真)
●発行：株式会社ビー・エヌ・エヌ新社

した。トップダウンではありません。」
杉島さんの表情は少し誇らしげです。「今は、ショップ設計は建築家に、PRのあれこれはアートディレクターにと、外の方の力もお借りすることになりました。おかげで、スタッフ全員が、家具デザイナーとその製作という本業に専念することが出来るようになりました。」
店長の藤本雅也さん。「デザインには全員が参加します。誰かが描いたラフスケッチが置いてあれば、いつの間にか他の誰かが手を加えたり。こうしたら面白いかなっていうアイデアを出したり。それを元に家具なら図面にとりかかったり、小物だったら試作を始めて作り上げていきます。時間もかかりますけど、「あつたらいいな」をカタチにするのは楽しいプロセスです。」
工房では、木工のワークショップも開催しています。制作物は季節に応じてクリスマスツリーのオーナメントだったり、「携帯木琴」だったり、課題もユニークです。ときにはライブもあります。木工道具に囲まれたこの工房は、ウッドワークさんの多目的スペースでもあります。
工房の壁にWOODWORKの理念、心得を記した額がありました。材木屋だからできること。
材木屋らしくないからできること。
創業110余年、材木屋「下基」の歴史

ショップ主任・広報企画担当の杉島暢子さん



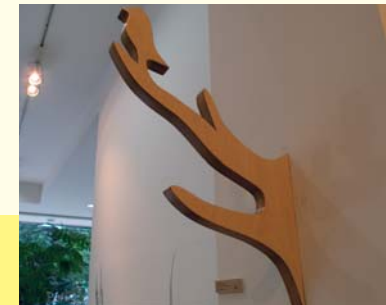
銅敷 何度も触れたくなる、なめらかな手触りです



「ひこう木」



一輪挿し「SOLA」



「ブランチャック」



「いろいろボックス」



樹種から天板を選ぶコレクション

を受け継ぎ、「ここにしかない」本物の家具」を作る
「ウッドワーク」の理念
そして「基本の心得」、「家具の心得」、「店の心得」、「工房の心得」と続き、末尾に「職人の心得」。以下に、その四、五だけ。
四、作ることが好きな自分と仲間を大切に、何でもあきらめずに取り組むこと。
五、けがをしないようにうまく休み、仕事の節目にはうまい酒を飲むこと。
いいなあ、と思ったのは私だけでしょうか。
杉島さんは言います。「材木屋は、「木」をめぐる大きな輪の中の一つ。その元には林業があり、流通があり、私たちが居て、製作があり、そして家具を使うユーザーさんたちの暮らしがあります。私たちは、この輪の中で「木の良さ、楽しさ」を伝える役目を担っていききたい。」
材木屋だからできる。材木屋らしくないからできること。材木の新しい挑戦が始まっています。ウッドワークさんのHPには、「ウッドワークの工房便り」という杉島さんがいつも更新しているブログがあります。覗いてみたらいかげでしよう。
「木と合板」の読者の皆さんにも、新しい「木」の発見があるかも知れません。



ウッドワークのみんなのペット

URL : <http://www.woodwork.co.jp/>

〔WOODWORK〕と入力するだけでも出てきます

新木場 漫歩

首都圏産業の国際競争力強化を目指し、世紀のビッグプロジェクトを担う 開港70周年に向けて、 東京港をグローバル時代の 国際商業港へ

国土交通省 関東地方整備局 東京港湾事務所



新木場1丁目の東京港湾事務所庁舎

「木のまち 新木場」を拠点にする会社、企業、スポットを探訪する「新木場漫歩」。

今回は、新木場駅から歩いて1分、新木場1丁目にある国土交通省関東地方整備局の東京港湾事務所をお訪ねしました。



事務所玄関

国土交通省関東地方整備局東京港湾事務所は、平成18年に青海から現在の新木場1丁目に引っ越してきました。まだ新しい庁舎です。川上泰司事務所長は、今年四月に就任されました。柔和な笑顔の方です。

東京港に巨大恐竜が出現？東京港臨海大橋のビッグプロジェクト

港湾事務所の仕事について
教えていただけますか？

「国土交通省の所管する港湾関係事務所は全国に約50箇所あります。関東には、東京港、横浜港、川崎港、千葉港、木更津港、鹿島港と六つあり、東京港湾事務所は東京港を管内とします。港の管理については国と自治体との役割分担があつて、地域的な社会資本整備や港に出入りする船舶の管理な

ど日々の業務は当該自治体が行います。私たち国交省の港湾事務所は国全体の視点に立って、港の機能を充実させるための社会資本整備を担当します。主に国が担うべきとする大規模な計画ですね。東京港湾事務所は、東は若洲海浜公園から西は大井埠頭に至るエリアを管内としています。

東京港湾事務所では、今三つの大きなプロジェクトを計画実施中です。一つは東京港臨海道路II期事業（仮称）の一部である「東京港臨海大橋（仮称）」の架橋工事です。この橋は、中央防波堤外側埋立地と江東区若洲を全長4・6kmで結び、そのうち橋梁部分は2・9kmです。この臨海道路が全線開通すると、これまでの新木場〜中央防波堤外側埋立地間の移動時間が従来から約四割短縮されます。また、例えば千葉方面からは有明・青海を通

らずに羽田・横浜方面に直接アクセスが出来るようになり、横浜方面からも有明・青海を通らずに新木場・千葉方面にアクセス可能となります。この事業による経済効果は年間300億円に達すると試算されています。

このパース（次頁上段）は、臨海大橋（仮称）の完成イメージを若洲側から見た完成イメージです。」

面白い形をしていますね。

「羽田空港に近いため厳しい空域の制限があります。ですから、橋の高さを98・1mより高くすることが出来ません。また桁下は、東京港第三航路の船舶航行に必要な高さを確保する必要があります。つまり、6万トンクラス、クイーンエリザベスII世号なみの船舶が通行可能な高さを確保するため54・6mが必要です。こうした条

件をクリアできるようにするため、高い塔の吊り橋や斜長橋ではなく、トラス橋方式を採用になりました。トラス橋は、古くからある形式で、三角形の基本構造をつなぎ合わせて造られます。橋桁の重さを分散させて長い橋を造るのに有効なカタチなんです。

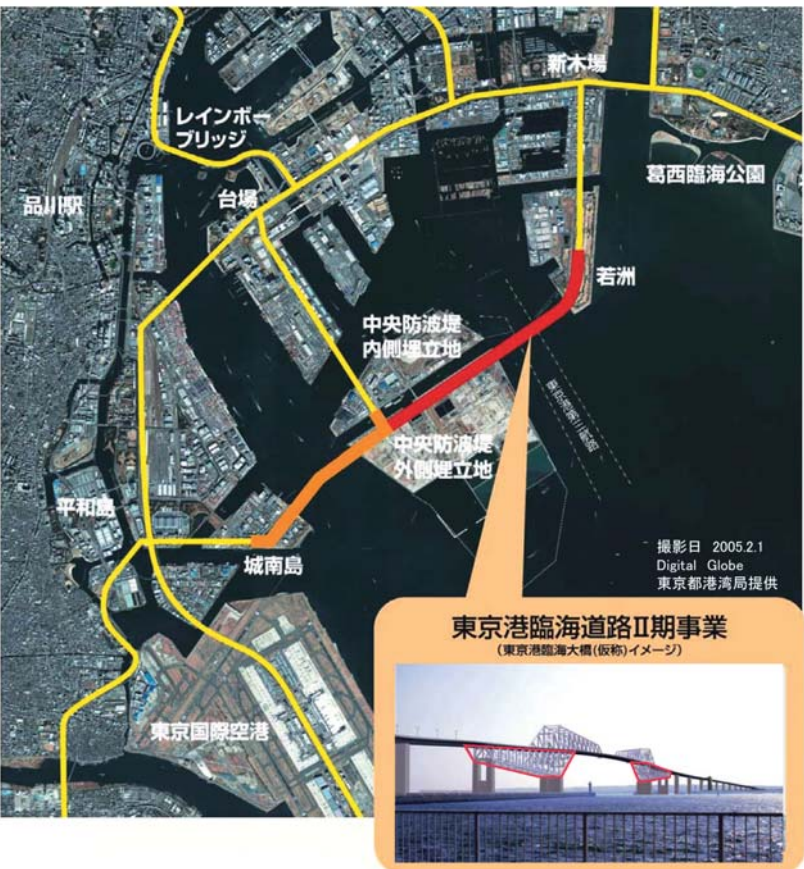
完成したら、長さはベイブリッジ、レインボーブリッジの約2倍ですから、大きなランドマークになるでしょうね。形状のユニークさから事務所の

この巨大なトラス橋は、四つの大きな鉄骨部のユニット（トラス桁）で構成され、下部トラス桁（左図赤線部分）重さは約6千トンにもなります。若洲側のトラス桁は

東京港臨海大橋（仮称）の完成イメージ

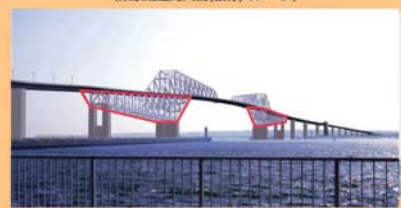


新木場タワーから架設工事中の臨海大橋を望む



撮影日 2005.2.1
Digital Globe
東京都港湾局提供

東京港臨海道路II期事業
（東京港臨海大橋（仮称）イメージ）



9月に、千葉県富津の組立ヤードから浜出しされ、巨大クレーン船3隻による海上輸送、橋脚への架設の一連の工事が行われました。この一連の作業経過は、東京港湾事務所のHPのアーカイブに紹介されています。作業は一般にも公開されました。

トラス桁の架設工事は一般にも公開されていましたね。
「一般公開は2回実施し、合計で千名を超える皆様に見学して頂きました。(企画調整課 中村健雄振興係長)」

東京港をグローバル時代の国際物流拠点に

「あとの二つが、中央防波堤内側埋立地の『新国内海上物流ターミナル整備事業(水深9m岸壁)』と同外側埋立地『新国際海上コンテナターミナル整備事業(水深16m岸壁)』です。

現在、船舶輸送は国際的にも巨大化、大型化の時代を迎えています。港湾のインフラが、国際的に見て不十分となれば輸出入を担う船舶は、他の国の国際港を経由せざるを得ません。それは、現在のグローバル時代にあつては、大きなデメリットになります。東京港のハブ化は、国際競争力の強化のためには不可欠のインフラ整備と言えるといます。

品川のコンテナターミナルは、日本で第1号のターミナルですが、もはや手狭な状態です。最近のコンテナ船は、8千個が国際標準となっており、1万個のコンテナ積載能力のものも出てきています。そのため、国際的には水深16mの岸壁を必要とします。

また国内海上輸送でも、フェリーは基本的に旅客が中心でしたが、今はロールオン・オフの貨物船が増えてきました。国内ターミナルとしても水深9mの岸壁が必要になります。

※ロールオン、ロールオフ
Roll On / Roll Off

ロールオン、ロールオフ船とは、船の前後のランプウェイからトラックやトレーラー、フォークリフトによって直接貨物を積み降ろしするFORO(ロールオン/ロールオフ)方式の貨物船。別名FOFO船(ローロー船)。「乗り込んで、降りる」と言う意味を持つ。トレーラーが直接乗り込んで、クレーンなどをせずに、貨物の積み下ろしができるため、貨物の大量輸送や荷役作業の効率がよくなり、物流に関わるコストを軽減することができるといわれています。フェリーにもトラックやトレーラーなどが直接出入りできる船はありますが、フェリーは旅客と貨物を輸送するのに対して、ロールオン、ロールオフ船は貨物のみを輸送する貨物船である。

コンテナターミナルは、シンガポールや香港などでも民間レベルで建設されており、この稼働のビジネスモデルも模索されていますが、ある程度は国や公共の力で整備することなしには難しいといえます。

この二つの事業はこうした要請に応えるものです。」

産業の帰趨を決める大きなプロジェクトの割には周知度は低いような気がするのですが、

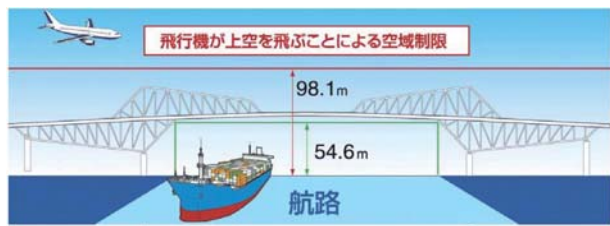
「限られた広報予算の中で事業PRにもいろいろ工夫しているのですが、もし、そうだとしたら私たちの努力不足かな(笑)。」

最後に、所長として一番心を砕いておられるのは、どんなところですか？
「大きなプロジェクトですから工程管理が一番ですが、所長としては職員健康です。東京港湾事務所の現在の事業予算は約300億です。職員は30数名。一人あたり10億円に匹敵します。

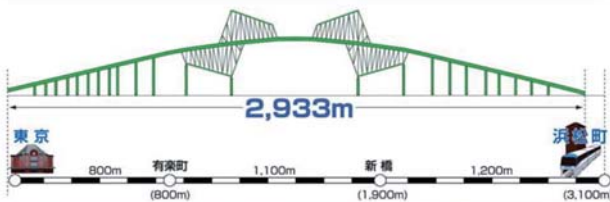
全国の港湾事務所でも突出しています。無理がたたらないように職員の健康管理には率先して気を配らねば、と思っています。平成23年は、東京港開港70周年を迎えます。それまでに大橋とこの事業を完成させることが事務所全員の目標です。」



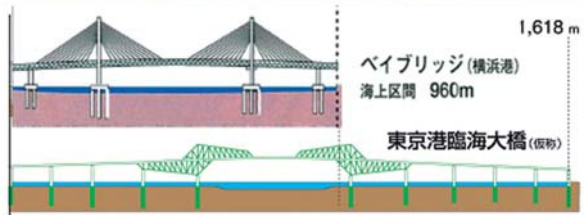
柔和な笑顔の川上泰司所長



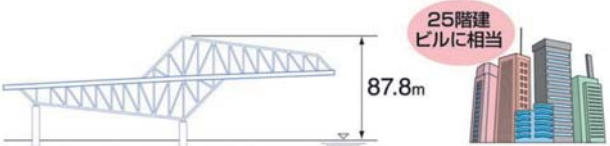
東京港臨海大橋(仮称)の全長は、東京～浜松町間と同程度



海をまたぐ長さは、ベイブリッジの約2倍



水面からトラス最上部までの高さは、87.8m 25階建ビルの高さに相当します



昭和33年(1958年)の東京港



平成17年(2005年)の東京港

《後記》

東京港湾事務所さんが小学生見学コースを実施されるときは、私も木材・合板博物館もコースの一つに加えていただき、以前からご近所のお話をしていただきました。今回、川上所長のお話を伺い、娘さんも見学コースで博物館に来館されたことお聞きし少しく恐縮した次第です。釣りがお好きで今はハゼ釣りに精を出しておられるとか。同好の同志で運河などの環境モニタリングをかねた趣味で、岸壁の下にハゼの産卵場所を作れないかと検討しているともお聞きしました。環境問題にもひとしおならぬ関心をお持ちの方です。

東京港の一角である新木場の貯木場には、かつて海外からの輸入丸太が所狭しと賑わっていたのですが、今は隔世の感があります。しかし、現在のグローバル時代に見合う港湾整備の重要性について、あらためて川上所長からお教えたいただき、東京港の現在と未来についても思いを新たにすることができました。

もうすぐ東京港開港70周年。港湾事務所の事業が一段落する頃には、私たち博物館ももう一回り大きく成長をさせていただきたいと思います。

(博物館チーフプロデューサー

赤石和義)



館内探訪 Q&A

Vol.7

木の一生



博物館の展示品についてのさまざまな疑問に答えます。第7回はジオラマ「木の一生」について解説します。館内入口から向かって左手の壁面に展示されています。

Q 1 「木の一生」のジオラマについておしえてください。

A これは人工林のサイクルを模型であらわしたものです。人工林とは、人が苗木を植えてつくった森のことです。日本の人工林を代表する樹木は、スギ・ヒノキ・カラマツ・エゾマツ・トドマツなどの針葉樹です。

Q 2 森の木は自然に育つのに、模型のように人間が手入れをする必要があるのですか？

A 人工林は人間が植えた森なので、植えばなしでは荒廃した森になってしまいます。責任をもってきちんと手入れを行っていく必要があります。

Q 3 人工林には具体的にどのような手入れが必要なのですか？

A 森づくりの第一歩として、苗木を植える場を整える「地ごしらえ」、苗木を植える「植え付け」という作業があります。その後、苗木が光を浴びて成長できるように、苗木の周りの草や低木を取り除く「下刈（したがり）」、木の幹に絡みついたつる植物を取り除く「つる切り」、自然に生えた木や、植えた木で曲がったり、成長が悪い木を取り除くための「除伐（じよばつ）」、節のない木材を作るために枝を切り落とす「枝打（えだう）ち」、植えた木の本数密度を調節して全体の育成を促すための「間伐（かんばつ）」、収穫のため最終的に伐採する「主伐（しゅばつ）」などがあります。これらの過程がジオラマで表現されています。

Q 4 せっかく育った木を「間伐（かんばつ）」するのは、環境によくないのでは？

A 森林には水源のかん養、土壌侵食防止など自然災害の防止、大気浄化、二酸化炭素の吸収、生物種の保全など、さまざまな機能があり、人工林も木材生産と共にこうした役割を担っています。ただし、人工林は手入れを前提としたシステムです。もし手入れをしないと、森の機能を発揮できなくなる恐れがあります。「間伐」されずに光が差し込まない暗い森になると、光合成が妨げられ、下草が不足したり、樹木の根が十分に成長できなかったりします。そうすると台風の際の倒木、大雨の際の土壌侵食・土壌流出が起きるなど、荒廃が進み十分な機能を果たさなくなってしまうのです。

Q 5 地球温暖化対策として、人工林の二酸化炭素吸収能力が注目されていますがそれはなぜですか？

A あらゆる森林の樹木は、光合成の働きにより、二酸化炭素を吸収して成長し炭素を貯蔵します。ただ原生林のように安定した森林では、日陰に育った木が呼吸により酸素を吸収し、高齢によって枯れた木が分解すると二酸化炭素を出すなど、トータルとして大気との交換作用が±0になります。一方、人工林では樹齢40～60年以上の木は伐採し、新たに苗木を植え付けるといったサイクルを繰り返すので、炭素の吸収量が多い森になります。この理由から、人工林の二酸化炭素吸収能力が特に期待されているのです。



ジオラマ「木の一生」(人工林のサイクル)



(ありさ)



木材・合板博物館のご案内

アクセス 東京メトロ有楽町線 新木場駅
JR京葉線 新木場駅 →より徒歩7分
東京りんかい高速鉄道 新木場駅
東京メトロ東西線 東陽町駅 →よりバス
②のりば/木11甲・木11折返
新木場一丁目バス停 より徒歩1分

開館時間 午前10:00より午後5:00まで (入館は閉館30分前まで) 入館無料

休館日 毎週月曜日、火曜日、祝日 年末年始
*都合により開館日・時間を変更することがあります
*幼児および小学生の入館には、保護者のつきそいが必要です。
*団体での見学は事前にお申し込みください。

表紙: 「木の最前線レポート」で紹介のウッドワークWood Workさんの小物アイテムWoody Car

木と合板 第7号 2009年11月1日発行 定価: 525円 (消費税込)
編集・発行 特定非営利活動法人 木材・合板博物館
〒136-8405 東京都江東区新木場一丁目7番22号 (新木場タワー)
TEL.03-3521-6600 FAX.03-3521-6602
Eメール: info@woodmuseum.jp
進 行 株式会社デジタルアート

特定非営利活動法人 木材・合板博物館

<http://www.woodmuseum.jp>

「木工教室」などさまざまなイベントを企画しております。事務局へお問い合わせ又はホームページをご覧ください。